様式第５号

令和６年度　学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

学校番号	14	学 校 名	静岡県立浜名特別支援学校	記 載 者	山本　恭子

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評　価	意見
【笑顔】環境づくり	**安全で安心な学校生活**	・避難生活を見据えた備蓄消耗品の定期的な点検と計画的な購入、避難生活想定研修が実施されている。 ・様々な発災時に必要な避難行動を、訓練時に自ら行うことができている。 ・避難生活に見通しをもてる体験活動を複数組み合わせ実施している。	A	A	・自主的に取り組んでいてよい。
		・・児童生徒がけがや病気から身を守る行動がとれている。 ・常に事故や危険防止の視点をもって環境を整えている教員 100% ・緊急時に自分がとるべき行動を理解している教員 90% ・児童生徒が食に関する知識や関心を見に付けることができている。	A	A	・教師が自分のとるべき行動を理解し、児童生徒に分かりやすく説明している。 ・特支は人数も多く情報を共有すること難しさがある。
		・事務部との情報共有により校内で早期に対応する環境整備ができている。	A	A	・大きい学校ではない良さが出ている。
		・児童生徒が、自分や周囲の人や物、場所の良さを知り大切にしている。	B	B	・桜チップや児童生徒昇降口の環境マップなど、体験を通して学習していていい。
	専門性の向上	・主体的に授業づくりに取り組み、授業改善を行うことができた教員 100% ・積極的に一授業研等を参観し、アドバイスを行うことができた教員（中堅研を終えた教員　所属学部　他学部　各一回以上）80%	B	B	・アドバイスをもらうことはいいことである。先生方が授業を抜けて他の授業を参観するのはむずかしいのかもしれない。
		・防災、自立活動、進路、摂食等の外部専門家等による研修を実際の指導場面等に生かすことができたと答える教員 100%	A	A	・他機関とのつながりの中で、周りに浜名の良さを知ってもらう機会になる。
	働きがいのある職場	・自分らしさを発揮できたと答える職員 75% ・日々の会話の中で相手を気遣う言葉を伝えることができた職員 100% ・気遣いの言葉を複数回受けた職員 100% ・業務改善や教員のやりがい向上につながる取り組みを行うことができた。学年、分掌、各１ずつ	A	A	・プライベートと仕事を分ける。バランスがとれているのではないか。

様式第５号

	づくり	・常時 19 時、定時退勤日 17 時 30 分施錠と残留希望申し出（上限１時間）の徹底がされている。90％			
【仲間】活動づくり	仲間との学びの中で、主体性を発揮できる活動づくり	・児童生徒個々の自立活動や個別の目標が、複数の教員の視点からたてられている。 ・個別の指導計画が授業の計画・反省時に活用され、児童生徒の育ちにつながっている。 ・授業づくりの評価に基づき、教科横断的な視点で年間指導計画や教育課程の見直しができている。	A	A	・先生方の評価が高い。コミュニケーションをとっていることが分かる。評価が高く、自信をもって仕事をしていることが分かる。 ・児童生徒、先生方が生き生きとしている。 ・目的を上手におろしているため、児童生徒は考えて取り組んでいる。
		・見取りによる授業改善と適切な学習評価ができたと答える教員 90％ ・すべての児童生徒の主体的な姿をすべての授業で見ることができた。90％	A	A	・体験して生かせるのがよい。 ・得意を生かすことは、進路につながる。成果目標が 90％だったのはうれしいことである。
		・体験的活動をとおし、児童生徒がワクワク（期待感と意欲）している姿が増えたり、仲間との関係が深まったりしている。	A	A	・活動の様子はどれも子供たちが生き生きとしている。
		・キャリア教育のおさえを意識し、キャリア発達に応じた授業を実践した教員 100％ ・児童生徒が今の生活や将来の姿を前向きにとらえることができている。	A	A	・21 名卒業生がいる。きめ細かく、生徒の意向をつぶさないという点がいい。
		・教師が情報機器を使用し、児童生徒の主体性を引き出した学習活動ができている。	A	A	・よい。
	豊かな日常生活を育む活動づくり	・生活年齢や発達段階に合わせた余暇につながる活動に、児童生徒が興味をもって自ら取り組んでいる。 ・家庭でも取り入れてもらえるよう呼びかけを行っている。	A	A	・児童生徒の仲がいい。いろいろな人と関われる。コミュニケーションを多くとれていることが分かる。
		・集会やペア学年との活動をとおし、他学部や他学年の児童生徒とあいさつを交わし合うことができるようになっている。 ・体育的行事や学習発表会の中でお互いの活動を知り応援することができている。	A	A	・目標に対しての自己評価が高い。Ａ評価が多いが、その次の目標を立てるのは難しそうである。Ａの次はどう進めるのか。
【地域】関係づく	地域とつ	・各学部の環境教育の目標に沿った学習と、学部学年が上がるごとに発展性がある取り組みが計画されている。 ・地域とつながり、連携した環境学習が展開	A	A	・生徒の状況に合った学習がタイムリーにできている。大人になっても記憶に残る。感性が芽生え

様式第５号

	ながる活動の推進	できている。			る。
		・地域住民との交流が生まれ、地域資源を活用した学習活動ができている。	A	A	・目標に近づける手立てを打っている。先生方は地域につながる苦労があるだろう。
		・支援が必要なケースを正しく把握し、各機関等とつながりながら児童生徒や保護者の願いに寄り添う支援をしている。 ・家庭や地域へ分かりやすくタイムリーな情報発信ができている。 ・校内作品展や校外作品展、ホームページ上の作品展等を計画的に開催し、来場者の意見を集約及び校内で共有できている。	A	A	・支援区分表とはどんなものか。
		・児童生徒が互いを知り合い、その中で自らを表現できる活動内容になっている。	A	A	・我が子が学校で楽しく過ごしている。家と違う姿を見ることができた。学校は楽しい場だろうと思った。学校でできたことが家でもできて嬉しい。
		・地域の幼保園や小中高からの依頼に対して必要なサポートをすることができている。	A	A	・よい。